



実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: まち歩き観光を指導できる地域リーダーの育成</li> <li>・実施期間: 平成20年8月～平成21年3月</li> <li>・実施場所: 高松市内を中心に全県エリアで、香川まち歩き観光連絡協議会において実施</li> <li>・取組の目的: まち歩きを継続的かつ自立的な観光商品としてプロデューサー(インストラクター)を5名育てる。そのため、市民ガイドに高度なガイド技術やまち歩きを観光商品として育て上げる手法を習得させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: まち歩き観光を指導できる地域リーダーの育成</li> <li>・実施期間: 平成20年8月～平成21年3月</li> <li>・実施場所: 高松市内を中心に全県エリアで、香川まち歩き観光連絡協議会において実施</li> <li>・取組の結果: 長崎さるく博コーディネータープロデューサーの茶谷幸治氏、新潟県三条市営業戦略室長(観光アドバイザー)の永井努氏を講師に招き、香川まち歩き観光連絡協議会に参加するまち歩き観光実施グループの主要メンバーに、まち歩き観光の意義、旅行エージェントとの連携の仕方、地域のブランドづくりなどの講習を行った。このメンバーの中から、地域リーダーとなる「まち歩きインストラクター」を高松地域で4名選出。市民ガイド育成マニュアルは、このインストラクターが中心となり、2月中に作成予定。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: 市民ガイドの育成</li> <li>・実施期間: 平成20年8月～平成21年3月</li> <li>・実施場所: 高松市内を中心に全県エリアで、香川まち歩き観光連絡協議会において実施</li> <li>・取組の目的: まち歩きガイドを募集し、育てる。地域リーダーがまち歩きコースの組み方、ガイドの仕方、観光客への対応などを身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容: 市民ガイドの育成</li> <li>・実施期間: 平成20年8月～平成21年3月</li> <li>・実施場所: 高松市内を中心に全県エリアで、香川まち歩き観光連絡協議会において実施</li> <li>・取組の結果: 高松地域で市民ガイド73名を確保し、上記インストラクターがまち歩きコースの組み方、ガイドの仕方、観光客への対応などを指導、身に付けさせている。この結果、高松地域だけでも、新たに10のまち歩きコースが造成された。</li> </ul>

**取組③** 持続可能な情報ネットワークの構築

**実施主体** (社)高松青年会議所、NPO法人ITCかがわ、(株)よんでんメディアワークス、ナイスタウン出版(株)、西日本放送サービス(株)

	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
実施内容、実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容①: 県民が伝えたい香川の観光情報冊子の出版と販売</li> <li>・募集期間: 平成20年8月～10月 ・発売期間: 平成21年1月～2月上旬</li> <li>・実施場所: 作品募集は香川県内にお住まいか出身者を対象</li> <li>・販売場所: 380の書店</li> <li>・取組の目的: 県民が思う香川の観光素材(地域のセールスポイント)を募集。情報提供者が全て県民及び県出身者とし、従来の切り口とは違った香川の魅力を県外の方に情報発信する。書店では有料販売とし、書店販売の形態をとった香川の観光情報(冊子)発信の実証実験を行う。また、香川の旅や県産品プレゼン企画を設け消費者ニーズを調査する。</li> <li>・実施内容②: 情報発信CARネットワークづくり</li> <li>・実施期間: 平成20年11月～21年3月</li> <li>・実施場所: 四国内の道の駅、SA、PA</li> <li>・取組の目的: 自動車の流入ポイントを観光情報の発信の場として活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容①: 県民が伝えたい香川の観光情報冊子の出版と販売</li> <li>・募集期間: 平成20年8月～12月 ・発売期間: 平成21年1月～3月上旬</li> <li>・実施場所: 作品募集は香川県内にお住まいか出身者を対象</li> <li>・販売場所: 書店450店舗(四国200・近畿250店舗) ※取組①の結果から関西圏のエリアを増やした。</li> <li>・取組の結果: 申込数約500点あり、応募者も小学生、大学生から60歳代まで幅広くあった。また県出身の芸能人、タレントも企画にご賛同いただき3名お申込を頂いた。県民から情報を集めて、県外の書店で販売する観光冊子は地元でも注目を集め、地元テレビ局や新聞社の記事として紹介された。今回、この募集の取り組みには、県下の団体・企業・大学・行政の約80団体が参画し協力を得ることができたことから、今後の事業連携に役立つ取り組みとなった。第1弾は終了したが、webにて継続的に作品を募集している。また、今後、販売実績等のフォロー調査を行い情報発信手法について検討を行う。</li> <li>・実施内容②: 情報発信CARネットワークづくり</li> <li>・実施期間: 平成20年11月～21年3月</li> <li>・実施場所: 四国内の道の駅、SA、PA</li> <li>・取組の結果: 道の駅、SA、PA等の利用状況に関する調査をおこなった。今後設置をする観光案内マップの需要調査を行い観光情報発信ポイントとしての活用方策を検討する。</li> </ul>

	100万人のラブレタープロジェクト推進協議会組織・体制図	取組の実施を踏まえた反省点
(7)実施体制		<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組①高松市屋島部会では、鳴門市などの県を超えた連携体制が構築できたことから、東讃広域部会としてエリアを拡大して実施。また、各部会において広域観光の観点から想定していなかった団体や行政が参画することになり、各地域において広域観光協議会の設立に発展することになった。</li> <li>・取組①のwebコンテンツ情報の掲載に際して、(財)香川県観光協会が主体的にして運用することになり、各市町の情報を集約、一元化で発信できる体制となった。</li> <li>・取組①のモニターツアー企画に際して、旅行エージェントと地域観光従事者の連携により、観光商品として売り出せるアドバイスと今後の意見交換の連携体制が確立できた。</li> <li>・取組①にて実施することを予定していた「まち歩き観光を用いた観光商品の開発」については、まち歩きの主体となる「地域リーダー」、「市民ガイド」を養成する取組②の「能動者たる地域リーダー養成と市民の広がり」において実施することが、現場の意見を反映でき、より効果的な商品の開発が可能であることから、取組②の地域リーダー養成委員会において実施を行った。</li> <li>・取組②において、いままでも独自で活動していた県下17のまち歩き団体を束ねることにより、情報の共有化、連携が可能になり、市民ガイドのレベルアップ、まち歩きコース構築に繋がった。</li> <li>・取組③にて、県民から情報収集のための募集実行委員会が発足し、短期間ではあるが約80団体の協力のもと作品募集(情報収集)の活動が行えた。</li> <li>・協議会事務局の西日本放送サービス・ネクサスは各取組の事務局機能に加え、各部会の開催や関係者間の調整、全体と個々のスケジュール管理、地元マスコミへの情報提供などを効果的に進め、事業を遂行することができた。</li> </ul>

○成果1→	高松地域への宿泊者数(観光消費金額)	
	H19 78万人(250億円)	H20(当初予定していた目標) 80万人(260億円)

H20(実際に得られた成果)  
 1月時点では、該当する調査データはまとまっていない。  
 (参考1) 香川県高松市の主要観光地入込状況(平成20年度上半期(4～9月))  
 【対前年度同期比 栗林公園 102.4%、玉藻公園 104.2%、香川県立ミュージアム 168.5%、屋島ドライブウェイ 85.0%、さぬきこどもの国 93.4%、四国民家博物館 96.3%】  
 (参考2) 西日本高速道路四国支社発表の年末年始(12/24～1/4)の高松自動車道の交通量 142万6台【前年比8.8%増加】  
 (参考3) 本州四国連絡高速道路会社発表の年末年始(12/27～1/4)の瀬戸大橋通行台数 20万4千9百60台【前年比12%増加】

(8)取組により得られた成果	○成果2→	宿泊者増加に伴う観光コンテンツの造成数	
		H19	H20(当初予定していた目標)
		0	10
		H20(実際に得られた成果)	
	<p>①宿泊者増加に伴う観光コンテンツの造成数4件</p> <p>1. 宿泊者に的を絞った高松繁華街の飲食店を巡る夜のまち歩きコースを2コース企画(まち歩きコース全体としては10件開発)。企画者がガイドとなり定着化している。</p> <p>2. 魚市場関係者が早期から始まるセリ・ショッピング・朝食を「市場体験」として商品化し、瀬戸内の恵みが満喫できるコースを1件構築。</p> <p>3. 瀬戸内海を活かしたサンセットクルーズを1件企画。モニターツアーの評価から平成21年度よりスポット的にイベントとして開催することとなった。</p> <p>観光コンテンツの造成にあたっては、宿泊しなければ利用できないコンテンツに特化したことから、一般的なコンテンツの造成と比較し困難を極めた。しかし、造成されたコンテンツの中でも2と3は、モニターツアーのアンケート調査に「観光商品としてたいへん魅力的である」との多数の回答があり、関係者間で今後の観光商品化に対する期待・理解が高まった。思わぬ波及効果として、モニターツアーがマスコミ各社で取り上げられたことにより、香川県内からもモニターツアーを体験したいとの問い合わせがあるなど高い県内ニーズがあることが確認できた。</p> <p>②県民から応募頂いた観光情報約500点のうち観光情報冊子に掲載した65の作品(情報)は、県外から観光客を誘引できる観光コンテンツとして更なる磨きを加え、引き続きこれらの作品を組み込んだ宿泊型観光コンテンツの商品化を目指す。</p>		
	地域リーダー(市民ガイド)の養成人数		
	H19	H20(当初予定していた目標)	
	地域リーダー0人(市民ガイド30人)	地域リーダー5人(市民ガイド80人)	
	H20(実際に得られた成果)		
	<p>①地域リーダー(まち歩きインストラクター)4名養成。市民ガイドは73名に達した。</p> <p>②香川まち歩き観光連絡協議会で、まち歩き観光の意義、旅行エージェントと連携した取組の可能性などについて勉強を重ねた結果、旅行エージェントが扱えるコースづくりを模索する動きが住民グループに出てきた。高松地域では、最少催行人数5名として、期間中いつでも催行できるまち歩きコースが提案され、平成21年4月から5月にかけて試験的に実施する予定。また、周辺部の琴平町では、旅行エージェントやホテル・旅館と組んでオプションでガイド付きまち歩きを体験できるコースを組んだり、観音寺市では、具体的に住民と旅行エージェントの間で旅行商品開発が進められることとなった。</p> <p>③平成21年4月から開催される「香川まちめぐり てくてくさぬき」では、地域リーダー、市民ガイドによる高松地域を中心とした県内全域におけるまち歩き観光が実施される予定。</p>		
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<p>①観光コンテンツを活かすwebサイトが完成し、地域の観光情報を発信できるスキームができた。情報を提供(入力と発信)するまち歩き団体や行政に対して講習会を行ったが、情報提供者として多様な情報を有する民間事業者などへの広がりが必要。また、香川のことを知らない観光客への利用環境を考えると本年度のPC版(香川に来る前にPCで確認)から携帯電話版に進化し、現地で移動しながら情報が取得でき、また現地でのナビゲーション機能を持たせる必要がある。</p> <p>②平成20年度、高松を中心とした観光コンテンツの開発は、市場調査・モニターツアーでの実証実験を通して異業種・広域連携の枠組みが確立でき、3つの観光広域協議会が発足した。また、観光商品として商品化したい素材も調査できた。次年度は各協議会が調査した観光商品を本格商品化し、販路体制を構築する必要がある。</p> <p>③香川県全域に波及効果をもたらすには、協議会のない中讃エリア(琴平・丸亀・普通寺など)、西讃エリア(観音寺・三豊など)、諸島エリア(小豆島・直島・女木島・男木島)にも地域が連携できる協議会を設ける必要がある。</p> <p>④県民が伝えたい香川の観光情報冊子の出版で、応募のために県下約80の団体に協力を頂いた。応募点数も500点を超え、発売と同時に地元マスコミの注目を集めた。今後は、こうした取組を持続的に行えるスキームを確立する必要がある。</p> <p>⑤これまで住民が自らの地域づくり、まち起こし活動の一環としてボランティアで実施していたガイド付きまち歩きを、持続可能な観光商品として育てていくため、本事業で地域リーダー(まち歩きインストラクター)4名を養成した。今後、このインストラクターを県内全域で活発に活動させ、新たな観光資源の発掘、磨き上げを進めるとともに、併せて、新たなインストラクター、ガイドの養成を進めていく必要がある。</p>		
(10)平成21年度以降の活動の見込み	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度		
	①当推進協議会が中心となり中国圏や四国圏(愛媛・高知)からの広域ルート上にある丸亀市のこんぴら街道道しるべ協議会、観音寺市の観音寺まち歩き会などと連携し、地域観光コンテンツ造成と観光商品の事業化。(H21年～)	<p>1. 観光コンテンツ構築のエリア拡大、連携、波及(平成21年6月～平成22年2月)</p> <p>・実施主体:100万人のラブレタープロジェクト協議会・香川県の主導で下記エリアの団体・NPO・協議会・行政</p> <p>・新規エリアとして中讃、西讃、諸島エリアで観光コンテンツ開発の部会を組織し、各エリアで観光素材の掘り起こしを行う。モニターツアーで実証実験を行いその課題を抽出する。また平成20年度で生まれた3つの広域観光協議会(高松市まちなか、塩江広域、東讃広域)とも連携し、香川県全体の観光振興のために調査事業を推進する。最終的に平成20年度、21年度で構築されたネットワークが生きる1つの協議会を設立するよう活動する。</p> <p>[活用を希望する制度] 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額900万円)</p>	
	②高松の地域リーダー、市民ガイドが中心になり、上記エリアの人材育成のために各地域づくりグループと連携し、人材育成プログラムを展開。(H21年～)	<p>2. 高松地域で養成したインストラクターが中心となり、県内全域の地域づくりグループと連携し、人材育成プログラムを展開(平成21年6月～平成22年2月)</p> <p>・実施主体:香川まち歩き観光連絡協議会、香川大学</p> <p>・高松地域で養成したインストラクターが、県内全域の地域づくりグループを指導することで、新たな観光資源の発掘・磨き上げを進める。</p> <p>・高松地域以外においてインストラクター・ガイドの養成を進め、観光商品づくりを加速する。</p> <p>・持続可能なまち歩き観光を育てるため、全国で活動する関係者に呼びかけて「全国まち歩きサミット」を開催し、課題・問題点を抽出し、更なる地域間の連携・波及へと事業を推進させる。</p> <p>[活用を希望する制度] 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額400万円)</p>	
	③H20年で構築した情報ネットワークを当協議会が推進役となり地域リーダー、市民ガイドなど香川県民100万人が活用できるように情報のプラットフォーム化。(H21年～)	<p>3. 情報プラットフォームを活かすための組織づくり(情報提供者の拡大)を通して、継続的な情報の収集と発信、利用者環境のグレードアップ(携帯電話版)(平成21年6月～平成22年2月)</p> <p>・実施主体:NPO法人ITCかがわ、(株)よんでんメディアワークス、西日本放送サービス(株)、香川県観光協会、香川県</p> <p>・誰でも簡単に情報発信できるwebを構築し、情報プラットフォームとしての環境を整えた。平成21年度からは、香川県観光協会の会員(民間や行政)を中心に情報提供者登録への呼びかけを行い「香川の観光情報」はこのサイトでわかる!とどこまで情報量や内容を充実させる。同時に同観光協会が管理している複数ある観光情報サイトを整理し、当サイトに一本化する。また、情報としての観光客の利便性を考えると、現地で移動しながら情報が取得でき、ナビゲーション機能のある携帯版が不可欠であることから、平成21年度において携帯版の情報プラットフォームを構築し、利用者環境のグレードアップを図る。</p> <p>[活用を希望する制度] 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額650万円)</p>	
当初提案なし	<p>4. 持続可能な情報発信のための県民運動への展開(平成21年6月～平成21年9月)</p> <p>・実施主体:100万人のラブレタープロジェクト推進協議会</p> <p>・平成20年度で県民より観光素材の収集、編集、出版、流通、販売のスキームが確認できた。また販売実績(平成21年3月に判明)は不明だが、県下での販売状況は良い(書店関係者)との連絡を頂けた。四国・関西圏での販売実績データは今後の香川の観光情報発信の基本ベースとなる。平成21年度は、前年度参画の80団体の枠を広げながら、香川の情報発信サポーター(若手社会人や学生)を100人養成し、積極的に情報を収集、発信できる「かがわ探検隊」を結成。この募集事業の意義(一人一人のメッセージが観光振興に繋がる)を県民に浸透させ、持続可能な県民運動に繋げていきたい。</p> <p>[活用を希望する制度] 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額750万円)</p>		

◆主な実施取組の内容◆

実施取組①:複合的な地域資源を活かした観光コンテンツの開発

実施主体:高松ホテル旅館料理協同組合、(財)高松観光コンベンション・ビューロー、塩江温泉観光協会、塩江温泉旅館飲食協同組合、NPO法人しおのえ、仏生山観光協会、源平屋島地域運営協議会、むれ源平まちづくり協議会、NPO法人東かがわ市ニューツーリズム協会、香川まち歩き観光連絡協議会、(株)JTB中国四国高松支店、(株)ネクサス、NPO法人ITCかがわ、(株)よんでんメディアワークス、西日本放送サービス(株) 他

実施内容・結果:高松まちなか、塩江広域、東讃広域で業種を超えた団体や行政が連携した部会を組織。同時に参画頂いた民間団体・協議会・NPO法人・行政が自らが情報発信できるwebサイトを構築。部会で地域の様々な観光資源と宿泊施設を連携させたコンテンツを開発し、webサイトにていつでも簡単に情報発信できる環境が整いました。また、観光コンテンツがどれくらい訴求力があるか調査するため関西圏在住の方を対象にした宿泊を伴うモニターツアーを2回開催。アンケート等で課題及び観光客のニーズを情報共有。今後の観光施策を考えるため各部会が発展的に広域連携観光協議会を発足。このwebサイトは、来年4月より香川県観光協会が主体的に運用し、地域の観光情報を一元的に集約し、観光客に対して従来バック旅行に依存していた香川の観光が個人旅行に対応可能な旬の細かな情報が提供できるようになりました。



香川の観光情報プラットフォームとなる  
MFC、利用者に香川のオリジナル旅行プランもマップ上で提案できます。



各地域自慢のコンテンツを体験頂いたモニターツアーは地元テレビ局・新聞で大きく取り上げられました。



実施取組②:能動者たる地域リーダー養成と市民への広がり

実施取組③:持続可能な情報ネットワークの構築

実施主体:香川まちあるき観光連絡協議会、香川大学、(社)高松青年会議所、NPO法人ITCかがわ、(株)よんでんメディアワークス、ナイスタウン出版(株)、西日本放送サービス(株) 他

実施内容・結果:今まで独自に活動していた、各地のまち歩き団体を当事業に於いて講習会や部会を通して今後の目標(平成21年度開催の香川県主催イベント「てくてくさめき」)や課題の共有が可能になった。また情報ネットワークに於いては自らが我が町の観光情報を掘り起こし、発信するための意識付け(100万人のラブレター冊子発刊事業)に際して、県下約80団体の参画を得て実施できた。県民及び県出身者が主体となった観光情報の県外発信は香川県内でも注目を集めました。またここで構築された団体のネットワークは、今後webサイトで情報発信を行うための基本組織となります。産・官・学・民が一体となった枠組みは香川の観光・地域振興大きな財産となりました。



地元新聞で取上げられた観光情報募集活動(約80団体が参画)



県下17のまち歩き団体が参加の講演会



香川県民からご応募頂いた  
県外に伝えたい観光情報の冊子  
(2ヶ月間で500点を超える応募・  
四国関西の450の書店で情報発信)

◆取組実施による成果・今後の展開◆

- ①高松地域の事業経験を基に観光コンテンツ開発のための新部会を中讃、西讃、諸島エリアに設置し、平成21年度事業で香川全域が観光振興で連携できる体制を構築します。
- ②モニターツアーの調査にて、従来観光素材として捉えていない、また商品化していなかった市場体験や瀬戸内海クルージングなどが観光商品化に向けて官民で動き出しました。
- ③当事業約80団体(100万人のラブレター協議会の約20団体と情報募集委員会の約60団体)を中心に次年度は全县に事業エリアを広げ参画団体を拡大し、県民観光会議を創設し今後の香川観光の連携と情報共有を図る。
- ④webサイトへの情報提供団体を③を通じて拡充していくと共に、現在のPC版から、携帯電話版に拡充し、現地で情報が入手できる利用者(観光客)サービスの向上を図ります。
- ⑤県民から情報提供頂いた100万人のラブレター冊子(第1弾応募作品約500点)の第2巻発刊(平成21年8月予定)事業にて、更に香川の隠れた観光素材を掘り起こすとともに、県民の参画意識を喚起・波及させ、同時に県外(平成21年度は中国・中部・関西、平成20年度は四国・関西)への情報発信を強化してまいります。
- ⑥全县ベースで宿泊を伴う(滞在時間を延ばす)観光客を増やすことを目的とし、地元観光業界への経済波及効果に繋がる、香川県を1つの観光エリアと捉えた事業展開を行います。